

令和6年度 宮城県試験研究機関評価委員会 第1回 工業関係試験研究機関評価部会

研究課題に係る評価部会実施結果

1 評価部会委員

評価部会委員名	所属・職名等	摘要
澤田 恵介	独立行政法人国立高等専門学校機構仙台高等専門学校 校長	部会長
赤羽 優子	株式会社ティ・ディ・シー 代表取締役社長	欠席
蛭名 武雄	国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター 所長	
二階堂 玲子	マルニ食品株式会社 代表取締役社長	
吉村 直幸	株式会社コスモスウェブ 代表取締役社長	
畑中 麻美	キョーユー株式会社 取締役管理部長	

2 評価対象課題

(1) 重点的研究課題の事前評価

評価対象課題名	概要	実施期間	予算額	摘要
(イ) 県特産品及び県育成新品種の特性評価と利用拡大に向けた検討	県の園芸振興品目である「サツマイモ」と「イチゴ」について、食品メーカーの利用拡大に向けた基礎調査を行う。全国的に需要が増しているサツマイモは、県内産地による違い、品種の特徴などを調査して食品メーカー・生産者に提供するとともに、県産サツマイモの加工における課題を調査する。また、イチゴの新品種「みやぎi3号」について特徴を明確にし、今後の振興戦略のバックデータとする。	令和7年度 から 令和8年度	2,000 千円	事前 評価

3 評価項目

(1) 重点的研究課題の事前評価

- イ 研究目標のニーズ適合性・地域への貢献度
- ロ 緊急性・優先性
- ハ 独創性・先進性・優位性
- ニ 市場性・成長性
- ホ 実現可能性
- ヘ 人・予算・設備等の推進体制

4 評価結果

(1) 重点的研究課題の事前評価

イ 県特産品及び県育成新品種の特性評価と利用拡大に向けた検討

採択したほうが良い。

5 研究課題評価表

別紙のとおり。

研究課題評価表（事前評価）

課題コード		評価実施日	令和6年11月12日	工業関係試験研究機関評価部会
試験研究課題名	県特産品及び県育成新品種の特性評価と利用拡大に向けた検討			
試験研究機関名	宮城県産業技術総合センター			
担当部署・担当者名	担当部：食品バイオ技術部		担当リーダー：佐藤信行	
研究機関	令和7年度～令和8年度			

項目別評価	評価項目 評価基準	評価			係数 平均	比重	採点 (点)
研究目標のニーズ適合性・地域への貢献度		澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	76.0	0.3	22.8
		A	—	A			
		二階堂部会委員	吉村部会委員	畑中部会委員			
		C	A	S			
	S 極めて高い A 高い B 普通 C やや低い D 低い	非公開					
緊急性・優先性		澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	80.0	0.1	8.0
		B	—	S			
		二階堂部会委員	吉村部会委員	畑中部会委員			
		—	A	A			
	S 極めて高い A 高い B 普通 C やや低い D 低い	非公開					
独創性・先進性・優位性		澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	68.0	0.1	6.8
		B	—	A			
		二階堂部会委員	吉村部会委員	畑中部会委員			
		B	B	A			
	S 極めて高い A 高い B 普通 C やや低い D 低い	非公開					

市場性・成長性	澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	80.0	0.2	16.0
	B	—	A			
	二階堂部会委員	吉村部会委員	畑中部会委員			
S 極めて高い	A	S	A	非公開		
A 高い						
B 普通						
C やや低い						
D 低い						
実現可能性	澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	76.0	0.2	15.2
	A	—	A			
	二階堂部会委員	吉村部会委員	畑中部会委員			
S 極めて高い	A	B	A	非公開		
A 高い						
B 普通						
C やや低い						
D 低い						
人・予算・設備等の推進体制	澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	52.0	0.1	5.2
	A	—	C			
	二階堂部会委員	吉村部会委員	畑中部会委員			
S 非常に優れている	D	A	C	非公開		
A 優れている						
B 妥当である						
C やや不足						
D 不足						
				合計	1.0	74.0

※採点の計算方法：係数（S = 100, A = 80, B = 60, C = 40, D = 20）に項目の比重をかけたものを採点とする。

	評 価			数値平均	総合評価
	澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員		
総合評価	A	—	A	4.2	A
	二階堂部会委員 S	吉村部会委員 A	畑中部会委員 A		

評価基準

S：ぜひ採択すべきである A：採択したほうが良い

B：計画を見直した上で,採択しても良い

C：採択の必要性は低い D：採択すべきではない

※総合評価の算出方法：各部会委員の総合評価を数値「S = 5, A = 4, B = 3, C = 2, D = 1」に置き換え, その平均値を少数第1位で四捨五入した数値に相当する評価を総合評価とする。

所 見	----- 非公開 -----